

## < 脳卒中センター >

### A.一般目標

神経系疾患のプライマリーケアが実践できるために、神経系疾患に関連した基本的な知識、態度、技能を習得し、鑑別診断、初期治療を的確に行う能力を獲得する。

### B.行動目標、方法および評価

行動目標		研修方法	評価方法
身体診察法	神経学的診察ができ、記載できる	実習、シミュレーション	カルテ評価
基本的な臨床検査	頭部 CT 検査	実習	口頭試問
	頭部 MRI・MRA 検査	実習	口頭試問
	脊髄 MRI 検査	実習	口頭試問
	脳血管撮影	経験	口頭試問
	脳血流シンチグラフィ	実習	口頭試問
	頸動脈エコー	実習	口頭試問
	髄液検査	経験	口頭試問
	脳波・筋電図	経験	口頭試問
基本的手技	神経生理学的検査(脳波、筋電図の手技と解釈)	実習	観察
	髄液検査(適応、手技と解釈)	実習	観察
基本的治療法	脳梗塞に対する治療法ができる	実習	カルテ評価
	脳梗塞危険因子(高血圧、糖尿病、高コレステロール血症などの)の治療ができる	実習、自習	口頭試問
	脳梗塞再発予防の指導ができる	実習、自習	観察
	リハビリテーションの基本的理解	実習	観察
頻度・緊急度の高い症状	<input checked="" type="checkbox"/> 頭痛	担当医として実習	レポート
	<input checked="" type="checkbox"/> めまい	担当医として実習	レポート
	失神、意識消失発作	担当医として実習	口頭試問
	けいれん発作	担当医として実習	口頭試問
	片麻痺、歩行障害	担当医として実習	口頭試問
	<input checked="" type="checkbox"/> 四肢しびれ	担当医として実習	レポート
	嚥下困難	実習	口頭試問

行動目標		研修方法	評価方法
経験すべき疾患	<input checked="" type="checkbox"/> 脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）	担当医として実習 講義	レポート
	<input checked="" type="checkbox"/> 変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症）	担当医として実習 講義	観察
	<input checked="" type="checkbox"/> 脳炎、髄膜炎	担当医として実習	観察
	<input checked="" type="checkbox"/> 脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫）	担当医として実習	レポート
	<input checked="" type="checkbox"/> 痴呆性疾患	担当医として実習	レポート
	<input checked="" type="checkbox"/> 老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥創）	担当医として実習	観察
	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の栄養摂取障害	担当医として実習	観察
特定の医療現場の経験	介護老人保健施設	実習	観察
	社会福祉施設	実習	観察

☒：入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針について症例レポートを提出すること

☒：外来診療又は受け持ち入院患者（合併症含む）で自ら経験すること

☒：機会があれば経験すべき疾患

☒：自ら実施し、結果を解釈できること

☒：レポートを提出すること

< 脳卒中センター > 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
本日の担当医	A	B	C	D	E
8:00-9:30	症例検討 CT, MRI 読影 今週の研修目標（指導医） 今日の予定確認（A）	症例検討 CT, MRI 読影 今日の予定確認（A）	症例検討 CT, MRI 読影 今日の予定確認（A）	症例検討 CT, MRI 読影 今日の予定確認（A）	症例検討 CT, MRI 読影 今日の予定確認（A）
午前	担当医回診に同行 病棟処置 主治医回診 手術助手	担当医回診に同行 病棟処置 主治医回診	神経生理検査（見学、実習） 病棟処置 手術助手	神経内科総回診 病棟処置	担当医回診に同行 主治医回診 病棟処置
昼休み	手術助手		手術助手		
13:00	脳血管撮影 手術助手		手術助手	脳血管撮影 手術助手	頸動脈エコー
16:30	手術助手		手術助手	脳外科部長回診	
17:30	手術症例検討	脳外科リハビリカンファランス	手術助手	神経内科リハビリカンファランス	
18:30	神内ケースカンファ	内科会（隔週） 症例発表（最終週） 神内ケースカンファ	神内ケースカンファ	脳神経センターカンファランス（第2、4週） 神経内科勉強会（第1、3週） 神内ケースカンファ	神内ケースカンファ

付記

脳血管障害患者は必ず経験し、レポートを提出すること。

脳神経疾患の手術症例について、診断、検査、術後管理などにつきレポートを提出すること（1例以上）

神経所見のとり方の手技、記載を習得し、解釈ができること。

脳血管障害クリニカルパスを理解し使用できる

主治医になった症例の頭部CT, MRIの所見が理解できる。

脳神経外科手術症例について、診断・検査・術後管理・患者へのICなどについて

レポートを作成する。（1例以上：レポート作成対象の症例は助手として必ず手洗いをすること。）

脳血管撮影検査に3例以上、手洗いをしして助手として参加する。

カテーテル操作の基本・塞栓予防の理解・（可能であれば）大腿動脈穿刺手技の実践を行う。

講義

クモ膜下出血の診断と治療

脳出血の診断と治療

頭部外傷の診断と治療

水頭症の病態と治療